

2023年度 大学入学共通テスト 英語 リスニング(本試験) 分析

試験時間 30 分(音声)

難易度	出題分量	出題傾向
<p>ほぼ変化なし 読み上げられる文章そのものの語彙レベルや語数も大きく変化はなかった。</p>	<p>例年並み 設問数・文章の長さなどに増減は見られず。</p>	<p>ほぼ変化なし 一部を除き、昨年度の形式を踏襲。 読み上げ回数も第 3 問以降が 1 回読みのまま変わらず。</p>
<p>総評 難易度や傾向に大きな変化はなかったが、第 3 問以降の 1 回読み部分は、例年同様に英語が苦手な受験生には難しく感じられたと予想できる。語彙力のもとより、簡単な数値の計算や、図表やワークシート等を正しく読み取るなど、単に聴き取れているだけでは正解できない解答も複数存在した。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	A 日常会話 B イラスト描写	25 点	「ドアを閉めて欲しい」「牛がどこにいる」などの簡単な文章が 2 回読み上げられるので、確実に正解したい。A は選択肢の前半部分に同じ単語が並んでいるため、後半を読み違えないよう注意。
第2問	イラストに関する会話	16 点	イラストに関して 2 名の会話を聴く。平易な会話だが、一部正解のポイントとなる部分がコンパウンド(リエゾン)されて聴き取りにくい可能性はある。2 回目で解消できるため、正解は可能。イラストも音声の合間によく確認するのが良い。
第3問	対話の内容に関する内容一致	18 点	ここから 1 回読み上げに変わるため、注意が必要。聞き取る前に問題文を確認し、英文で設問が書かれているのを音声の合間に読み取っておく。「何を聞き取るべきか」わかった上で本文を聴くことで、正答できる。内容は簡単な日常会話が 3~4 往復程度。
第4問	A グラフ読取と表の穴埋め B 生徒会選挙演説聴き比べ	12 点	A の問 18-21 は昨年のイラストを時系列に並べる問題から、棒グラフを読み取る形式に変更された。比較の文章がいくつも続けて読まれるため、聴きながら解答をしていく必要がある。弱く読まれることも多い significantly, slightly, などの副詞や second などの数量形容詞が正答へのキーワードとなることもあり、注意が必要。 問 22-25 は情報の処理を素早くする必要はあるが、読み上げ文の難易度は高くなく、聴きながら表に書き込みをするなどで対応できる。

			B の生徒会選挙演説は、例年より平坦な文が多く、選択肢と読み上げ本文が、同意の単語で読み替えられているものの、聴き取りやすい。話者は第 1 問から第 3 問と比べ、アジア系の話者を模した発音が多く、多様性を出そうとしているが、比較的明確な発音しているため、むしろ聴きやすいと感じる受験生もいたかもしれない。
第5問	アジアゾウに関する講義	15 点	例年同様にここから正答する難易度が上がると予想できる。アジアゾウに関する講義を聴きながら、ワークシートの空欄を埋め、内容一致させる問題。本文読み上げ前に状況とワークシートを読む時間が与えられるので、それを含めた合間の時間にどれだけ問題用紙に目を通しておくかが鍵。空欄に何を求められているかがわかれば格段に聴き取りと正答のハードルが下がる。読み上げ skincare と選択肢 cosmetics などの簡単な言い換えもあるため、慎重に対応したい。後半の問 33 も聴き取る情報と読むべきグラフ情報、選択肢が多く、時間との勝負になる。
第6問	A ハイキングについての親子の会話 B 就職後どこに住みたいかの4人の学生の会話	14 点	A ひとりでハイキングにいくべきかどうかについて母と息子が話し合う会話。危険性や優位性についてお互いがどう考えているかを聴き取る。状況と問題文を先に読む時間はあるが、問3・4は選択肢にもある程度先に目を通しておかないと時間内に対応ができない。問題文の the most, や by the end of the conversation が鍵。B 例年同様に4名の会話でそれぞれの意見を聴き取る。都会に住みたいか郊外に住みたいかの話題だが、男性の名前がすぐには判明しないため、メモが取りづらい。初めは都会に住みたい派だった Mary が後半で再検討すると言っているのを聴き逃さないように注意が必要。女性2人、男性2人それぞれ声のタイプが似ており、聴き分けに一瞬戸惑う可能性あり。

受験生へのワンポイントアドバイス

例年と同様に、第 3 問以降で 1 回読み上げになると難易度が上がるため、1、2 年生のうちから過去問や模擬問題などで「時間内に処理する」ことを体感して取り組むことが必要である。ただし、英語が苦手な場合、基本的な英語力がなければスタートラインにも立てないため、英単語などの基礎力を強化など日々の地道な学習を怠らず、本番では第 1 問、第 2 問は確実に正解できるようにしたい。一方で国公立や最難関私立を目指す受験生は、本文の音声が出ていない数秒の間に問題文や選択肢をどの程度まで読み込めるかが高得点の鍵となる。そのため、自分が何秒で何語まで読めるのか、その語数を増やすにはどうすべきかを意識しておく、今後の点数アップにつながるだろう。